

2022年6月4日発行

No.51

早稲田大学本庄高等学院通信

緑かぜ風

書：3C 佐野瑞歩（書道部）

発行：早稲田大学本庄高等学院 発行人：半田 亨 〒367-0032 埼玉県本庄市栗崎239-3 ☎0495-21-2400 【URL】https://www.waseda-honjo.jp

本庄高等学院の卒業論文制度

早稲田大学本庄高等学院 学院長 半田 亨



この広報紙「緑風」をお読みになる方は主として学院生・保護者、そしてひょっとしたら受験生の方もいらっしゃるかと推測します。

本庄学院では事ある毎に教育の特色として卒業論文(以下、卒論と略)の存在が強調され、生徒に向けてはそれしつかり取り組むことの重要性が訴えられます。しかし、保護者の方にとれば「大事だ」ということは耳にするが、具体的にどういう制度なのか?と聞かれると、よく分からない。という感想が一般的ではないかと思えます。そこで、この場を借りて、本校の卒業論文制度について書きたいと思えます。「長々と書いて、だから何なんだ?」と思われるような、どうでもいい自分の感想をここに書くよりも、保護者の方に加え、ひょっとしたら学院生、受験生の方にとっても参考になるかも知れません。

卒業論文は1982年の開校以来継続されている。本庄学院の最重要教育プログラムです。当時、この制度は、新設校として訪中修学旅行と並ぶ大きな「ウリ」でした。今では、課題学習・探求活動として多くの高校で実施されていますが、当時は論文教育を実施しているところはほとんどなかったのではないかと思います。

私は1987年に数学教師として本庄学院に採用されました。制度としてはあるが、システムとしてはうまく動いていないというものが、当時の卒論に対する私の率直な印象です。評価もA、B+、B、C、Fというアバウトなもので、担当教員の主観でした。途中経過報告の義務もなかったため、生徒によっては一切(1988年度まで)12月、1989年度から冬休み明けの日)間に書き始めるという強者も多かったと思えます。ちなみにテーマ登録は3年時の4月、指導教員の決定は6月でした。それでも視点やアプローチが面白かったり、論文としてのクオリティの高いものが出てくるにつけ、学院生のポテンシャルを感じました。もちろん、小学生の夏休みの自由研究のようなものも多く見られました。

当時はまだ、Wordのようなワープロソフトはありませんでした。そのため40字詰め原稿用紙50枚以上手書きが義務づけられていました。現在もある卒論提出の条件「2万字以上」はこの時の名残です。今では信じられないと思いますが、グラフや画像は、グラフ用紙に書いたものを写真のコピーを糊で原稿用紙に切り貼りしていました。

変化とチャンス

保護者の会 会長 黛 昌智



コロナ禍も三年目に入り、「Win the Corona」の考え方が徐々に浸透してきた結果もあり一時期に比較すれば、感染者数などの指標にも動揺することなく、私たちの生活も落ち着きを取り戻しました。しかし、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、人々の生活様式も新しいものになり、それに伴って私たちの生活行動や考え方も大きな変化があります。

コロナ禍の前までは普通だった「集まり方」も大きく変わるでしょうが、この集まり方は組織文化によっても異なります。硬直的な官僚的組織では、対応できないことも増え、個人としてだけでなく、組織としても変化を重視することの重要性がより高まっています。進化論で有名なチャールズ・ダーウィンの

It is not the strongest of the species that survives, nor the most intelligent that survives. It is the one that is most adaptable to change.
生き残る種とは、最も強いものではない。最も知的なものでもない。それは、変化に最もよく適応したものである。という有名な言葉もありますが、現在の急激な変化に対応するには、個人としても組織としても「より賢く、より早く」変化に対応することも求められています。

リモート授業とリアルな登校を組み合わせた「オンライン授業」を「日常」として体験された生徒の皆さんだけでなく、保護者の皆さんも「リモートワーク」や「オンライン化」が進む中で、人と人の「コミュニケーション」は重要であることに変わりはないと私は思っています。コミュニケーションをとる方法としては、リアルに集まるだけではなく、アプリを利用したオンラインでの会議など様々な方法をとることが可能となってきました。今後、私たちはどのように「集まる」べきでしょうか。「伝達」だけの目的であれば、オンライン

でも有意義なものが出てくるでしょうが、私自身が古い人間であるため、組織としての一体感をオンラインだけでは今までもとりにくく、難しいと感じています。以前は集まって何気なく体験していた「共通の経験」を今後どのように経験していくかなど多くの課題があると感じています。



新体育館が完成して、3年目となりました。外観は、初めて来た人には何の建物かわからない不思議な見た目になっていました。実は、大久保山の上にある旧校舎と同じコンクリート打ちっぱなしのデザインをイメージして作られています。この新体育館には一般的な学校の体育館では見ることのない様々な工夫がなされています。壁は柱構造ではなく、コンクリートを積み上げていくこと。下駄箱は奥行を出すために斜めになっていること。壁が、コンクリートなのに木目調になっていること。1階入り口の天井の高さは日本家屋の襖と同じ高さになっていること。

メインアリーナの天井に照明がないこと(両脇から照明を入れる)。体育館の案内図が、建築用の図面になっていること。メインアリーナにはカーテンが無いのに左右の窓から日差しが一切差し込まないこと。いくつ気づきましたか? 珍しい建物なので、2月の下旬に、めざましテレビの取材があり、ジャニーズグループの建築学科出身の人が来てくれました。その撮影時に、「建物には、使ってみて初めて分かる良さがある」というコメントがあり、とても印象に残っています。皆さんが、設計士の意図とは異なる新しい体育館の良さを見つけてくれることを楽しみにしています。

最後に、体育館の名称についてですが、全学年が旧体育館を知らない学年となったため、「新体育館」と呼ぶ必要はなくなりました。校舎は、「豆腐」(?と呼ぶ人が多いのですが、新しい体育館は何と名付けますか? 後輩たちにずっと受け継がれる名称を思いついたら、ぜひ教えてください!(KT)

参考文献
早稲田大学本庄高等学院「25周年記念誌 継承と発展 2007」
早稲田大学本庄高等学院「10周年記念誌 総括と想像 1991」

各種プログラム報告

教育プログラム報告

河川研究班の活動

2009年から現在に至る活動の継続および昨年度作成を開始した「ほんじょうの川のせいぶつ図鑑」が評価され、今年度、第10回毎日地球未来賞、令和3年度彩の国埼玉環境大賞を受賞しました。



3月12日(土)に開催した市民シンポジウムはコロナ禍の中、オンラインで実施しました。藤田小の他に、川を舞台とした活動に取り組む福岡県と三重県の小学校も参加して行われました。

課外講義 これがサイエンスだ! 特別講演「二ホニウム〜人工元素発見について〜」

3月12日(土)17時〜19時、理化学研究所の羽場宏光先生による標記の講演会をオンラインで開催しました。

国際交流プログラム Asia Academic & Cultural Sessions (A'ACS) 2022

AACSは、昨年新型コロナウイルス感染拡大により国際交流活動が全くできないことを憂えた学院生たちが、例年のタイ研修において同時にMahidol Wittayanusorn School (MWIT)と交流している愛知県立半田高等学校と相談し、連携・共同主催し、開催した国際シンポジウムです。

今年度は2月5日(土)6日(日)の2日間、新たに茨城県の清真学園、今年度共同研究を行ったフィリピンとタイの生徒も参加し、すべて半田高校・本庄学院生徒のコーディネートで実施されました。

Symposium between MWIT & Waseda Honjo Mahidol Wittayanusorn School (MWIT)は長く交流を重ねているタイの姉妹校です。

3月30日(水)19時〜20時、標記のミニシンポジウムを開催しました。

研究発表の他、両国の独特な食べ物紹介、迷信・風俗の紹介、家庭紹介、タイ語・日本語教室など、従来のシンポジウムとはちょっと違う切り口で、純粋に楽しむ時間でした。

ミニシンポジウム「国際交流へのいざない」

3月30日(水)19時〜20時、標記のミニシンポジウムを開催しました。

このシンポジウムは、コロナ禍で対面の国際交流の機会が失

われた中、国際交流の魅力や、その芽を失わないようにと考え、2020年より実施しています。

最後に、講師によって作成された統計学の講義動画シリーズが紹介され、卒論など参考にしたいときに視聴できることが説明されました。

受講生からは、「統計学がどんなものかわかった」「卒論で利用してみたい」という感想が寄せられました。

課外講義 第2回これがサイエンスだ!

「多変数連立代数方程式の解法と応用〜グレブナー基底で遊んでみよう〜」

【題名】連立代数方程式の解法とその応用〜グレブナー基底を用いて論理パズルを解いてみよう〜

【日時】4月22日(金)16:00〜17:30(90分)

【対象】全学年

【会場】S301教室

【講師】太田 洋平(本学院数学科)

この日はスマホやタブレットノートPCを用いてグレブナー基底について理解を深めました。

グレブナー基底は多変数の方程式の解を用いるときなどに用いられている理論です。

国際交流プログラム

コロナ禍の中、対面による相互交流は壊滅的ですが、オンラインを使って様々な取り組みをしています。

Asia Academic & Cultural Sessions (A'ACS) 2022

AACSは、昨年新型コロナウイルス感染拡大により国際交流活動が全くできないことを憂えた学院生たちが、例年のタイ研修において同時にMahidol Wittayanusorn School (MWIT)と交流している愛知県立半田高等学校と相談し、連携・共同主催し、開催した国際シンポジウムです。

今年度は2月5日(土)6日(日)の2日間、新たに茨城県の清真学園、今年度共同研究を行ったフィリピンとタイの生徒も参加し、すべて半田高校・本庄学院生徒のコーディネートで実施されました。

Symposium between MWIT & Waseda Honjo Mahidol Wittayanusorn School (MWIT)は長く交流を重ねているタイの姉妹校です。

3月30日(水)19時〜20時、標記のミニシンポジウムを開催しました。

研究発表の他、両国の独特な食べ物紹介、迷信・風俗の紹介、家庭紹介、タイ語・日本語教室など、従来のシンポジウムとはちょっと違う切り口で、純粋に楽しむ時間でした。

ミニシンポジウム「国際交流へのいざない」

3月30日(水)19時〜20時、標記のミニシンポジウムを開催しました。

このシンポジウムは、コロナ禍で対面の国際交流の機会が失

われた中、国際交流の魅力や、その芽を失わないようにと考え、2020年より実施しています。

最後に、講師によって作成された統計学の講義動画シリーズが紹介され、卒論など参考にしたいときに視聴できることが説明されました。

受講生からは、「統計学がどんなものかわかった」「卒論で利用してみたい」という感想が寄せられました。

課外講義 第2回これがサイエンスだ!

「多変数連立代数方程式の解法と応用〜グレブナー基底で遊んでみよう〜」

【題名】連立代数方程式の解法とその応用〜グレブナー基底を用いて論理パズルを解いてみよう〜

【日時】4月22日(金)16:00〜17:30(90分)

【対象】全学年

【会場】S301教室

【講師】太田 洋平(本学院数学科)

この日はスマホやタブレットノートPCを用いてグレブナー基底について理解を深めました。

グレブナー基底は多変数の方程式の解を用いるときなどに用いられている理論です。

国際交流プログラム

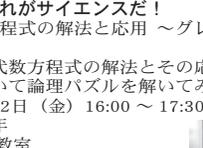
コロナ禍の中、対面による相互交流は壊滅的ですが、オンラインを使って様々な取り組みをしています。

各種プログラム報告

教育プログラム報告

河川研究班の活動

2009年から現在に至る活動の継続および昨年度作成を開始した「ほんじょうの川のせいぶつ図鑑」が評価され、今年度、第10回毎日地球未来賞、令和3年度彩の国埼玉環境大賞を受賞しました。



3月12日(土)に開催した市民シンポジウムはコロナ禍の中、オンラインで実施しました。藤田小の他に、川を舞台とした活動に取り組む福岡県と三重県の小学校も参加して行われました。

課外講義 これがサイエンスだ! 特別講演「二ホニウム〜人工元素発見について〜」

3月12日(土)17時〜19時、理化学研究所の羽場宏光先生による標記の講演会をオンラインで開催しました。

国際交流プログラム Asia Academic & Cultural Sessions (A'ACS) 2022

AACSは、昨年新型コロナウイルス感染拡大により国際交流活動が全くできないことを憂えた学院生たちが、例年のタイ研修において同時にMahidol Wittayanusorn School (MWIT)と交流している愛知県立半田高等学校と相談し、連携・共同主催し、開催した国際シンポジウムです。

今年度は2月5日(土)6日(日)の2日間、新たに茨城県の清真学園、今年度共同研究を行ったフィリピンとタイの生徒も参加し、すべて半田高校・本庄学院生徒のコーディネートで実施されました。

Symposium between MWIT & Waseda Honjo Mahidol Wittayanusorn School (MWIT)は長く交流を重ねているタイの姉妹校です。

3月30日(水)19時〜20時、標記のミニシンポジウムを開催しました。

研究発表の他、両国の独特な食べ物紹介、迷信・風俗の紹介、家庭紹介、タイ語・日本語教室など、従来のシンポジウムとはちょっと違う切り口で、純粋に楽しむ時間でした。

ミニシンポジウム「国際交流へのいざない」

3月30日(水)19時〜20時、標記のミニシンポジウムを開催しました。

このシンポジウムは、コロナ禍で対面の国際交流の機会が失

われた中、国際交流の魅力や、その芽を失わないようにと考え、2020年より実施しています。

最後に、講師によって作成された統計学の講義動画シリーズが紹介され、卒論など参考にしたいときに視聴できることが説明されました。

受講生からは、「統計学がどんなものかわかった」「卒論で利用してみたい」という感想が寄せられました。

課外講義 第2回これがサイエンスだ!

「多変数連立代数方程式の解法と応用〜グレブナー基底で遊んでみよう〜」

【題名】連立代数方程式の解法とその応用〜グレブナー基底を用いて論理パズルを解いてみよう〜

【日時】4月22日(金)16:00〜17:30(90分)

【対象】全学年

【会場】S301教室

【講師】太田 洋平(本学院数学科)

この日はスマホやタブレットノートPCを用いてグレブナー基底について理解を深めました。

グレブナー基底は多変数の方程式の解を用いるときなどに用いられている理論です。

国際交流プログラム

コロナ禍の中、対面による相互交流は壊滅的ですが、オンラインを使って様々な取り組みをしています。

Asia Academic & Cultural Sessions (A'ACS) 2022

AACSは、昨年新型コロナウイルス感染拡大により国際交流活動が全くできないことを憂えた学院生たちが、例年のタイ研修において同時にMahidol Wittayanusorn School (MWIT)と交流している愛知県立半田高等学校と相談し、連携・共同主催し、開催した国際シンポジウムです。

今年度は2月5日(土)6日(日)の2日間、新たに茨城県の清真学園、今年度共同研究を行ったフィリピンとタイの生徒も参加し、すべて半田高校・本庄学院生徒のコーディネートで実施されました。

Symposium between MWIT & Waseda Honjo Mahidol Wittayanusorn School (MWIT)は長く交流を重ねているタイの姉妹校です。

3月30日(水)19時〜20時、標記のミニシンポジウムを開催しました。

研究発表の他、両国の独特な食べ物紹介、迷信・風俗の紹介、家庭紹介、タイ語・日本語教室など、従来のシンポジウムとはちょっと違う切り口で、純粋に楽しむ時間でした。

ミニシンポジウム「国際交流へのいざない」

3月30日(水)19時〜20時、標記のミニシンポジウムを開催しました。

このシンポジウムは、コロナ禍で対面の国際交流の機会が失

われた中、国際交流の魅力や、その芽を失わないようにと考え、2020年より実施しています。

最後に、講師によって作成された統計学の講義動画シリーズが紹介され、卒論など参考にしたいときに視聴できることが説明されました。

受講生からは、「統計学がどんなものかわかった」「卒論で利用してみたい」という感想が寄せられました。

課外講義 第2回これがサイエンスだ!

「多変数連立代数方程式の解法と応用〜グレブナー基底で遊んでみよう〜」

【題名】連立代数方程式の解法とその応用〜グレブナー基底を用いて論理パズルを解いてみよう〜

【日時】4月22日(金)16:00〜17:30(90分)

【対象】全学年

【会場】S301教室

【講師】太田 洋平(本学院数学科)

この日はスマホやタブレットノートPCを用いてグレブナー基底について理解を深めました。

グレブナー基底は多変数の方程式の解を用いるときなどに用いられている理論です。

国際交流プログラム

コロナ禍の中、対面による相互交流は壊滅的ですが、オンラインを使って様々な取り組みをしています。

各種プログラム報告

教育プログラム報告

河川研究班の活動

2009年から現在に至る活動の継続および昨年度作成を開始した「ほんじょうの川のせいぶつ図鑑」が評価され、今年度、第10回毎日地球未来賞、令和3年度彩の国埼玉環境大賞を受賞しました。



3月12日(土)に開催した市民シンポジウムはコロナ禍の中、オンラインで実施しました。藤田小の他に、川を舞台とした活動に取り組む福岡県と三重県の小学校も参加して行われました。

課外講義 これがサイエンスだ! 特別講演「二ホニウム〜人工元素発見について〜」

3月12日(土)17時〜19時、理化学研究所の羽場宏光先生による標記の講演会をオンラインで開催しました。

国際交流プログラム Asia Academic & Cultural Sessions (A'ACS) 2022

AACSは、昨年新型コロナウイルス感染拡大により国際交流活動が全くできないことを憂えた学院生たちが、例年のタイ研修において同時にMahidol Wittayanusorn School (MWIT)と交流している愛知県立半田高等学校と相談し、連携・共同主催し、開催した国際シンポジウムです。

今年度は2月5日(土)6日(日)の2日間、新たに茨城県の清真学園、今年度共同研究を行ったフィリピンとタイの生徒も参加し、すべて半田高校・本庄学院生徒のコーディネートで実施されました。

Symposium between MWIT & Waseda Honjo Mahidol Wittayanusorn School (MWIT)は長く交流を重ねているタイの姉妹校です。

3月30日(水)19時〜20時、標記のミニシンポジウムを開催しました。

研究発表の他、両国の独特な食べ物紹介、迷信・風俗の紹介、家庭紹介、タイ語・日本語教室など、従来のシンポジウムとはちょっと違う切り口で、純粋に楽しむ時間でした。

ミニシンポジウム「国際交流へのいざない」

3月30日(水)19時〜20時、標記のミニシンポジウムを開催しました。

このシンポジウムは、コロナ禍で対面の国際交流の機会が失

われた中、国際交流の魅力や、その芽を失わないようにと考え、2020年より実施しています。

最後に、講師によって作成された統計学の講義動画シリーズが紹介され、卒論など参考にしたいときに視聴できることが説明されました。

受講生からは、「統計学がどんなものかわかった」「卒論で利用してみたい」という感想が寄せられました。

課外講義 第2回これがサイエンスだ!

「多変数連立代数方程式の解法と応用〜グレブナー基底で遊んでみよう〜」

【題名】連立代数方程式の解法とその応用〜グレブナー基底を用いて論理パズルを解いてみよう〜

【日時】4月22日(金)16:00〜17:30(90分)

【対象】全学年

【会場】S301教室

【講師】太田 洋平(本学院数学科)

この日はスマホやタブレットノートPCを用いてグレブナー基底について理解を深めました。

グレブナー基底は多変数の方程式の解を用いるときなどに用いられている理論です。

国際交流プログラム

コロナ禍の中、対面による相互交流は壊滅的ですが、オンラインを使って様々な取り組みをしています。

Asia Academic & Cultural Sessions (A'ACS) 2022

AACSは、昨年新型コロナウイルス感染拡大により国際交流活動が全くできないことを憂えた学院生たちが、例年のタイ研修において同時にMahidol Wittayanusorn School (MWIT)と交流している愛知県立半田高等学校と相談し、連携・共同主催し、開催した国際シンポジウムです。

今年度は2月5日(土)6日(日)の2日間、新たに茨城県の清真学園、今年度共同研究を行ったフィリピンとタイの生徒も参加し、すべて半田高校・本庄学院生徒のコーディネートで実施されました。

Symposium between MWIT & Waseda Honjo Mahidol Wittayanusorn School (MWIT)は長く交流を重ねているタイの姉妹校です。

3月30日(水)19時〜20時、標記のミニシンポジウムを開催しました。

研究発表の他、両国の独特な食べ物紹介、迷信・風俗の紹介、家庭紹介、タイ語・日本語教室など、従来のシンポジウムとはちょっと違う切り口で、純粋に楽しむ時間でした。

ミニシンポジウム「国際交流へのいざない」

3月30日(水)19時〜20時、標記のミニシンポジウムを開催しました。

このシンポジウムは、コロナ禍で対面の国際交流の機会が失

われた中、国際交流の魅力や、その芽を失わないようにと考え、2020年より実施しています。

最後に、講師によって作成された統計学の講義動画シリーズが紹介され、卒論など参考にしたいときに視聴できることが説明されました。

受講生からは、「統計学がどんなものかわかった」「卒論で利用してみたい」という感想が寄せられました。

課外講義 第2回これがサイエンスだ!

「多変数連立代数方程式の解法と応用〜グレブナー基底で遊んでみよう〜」

【題名】連立代数方程式の解法とその応用〜グレブナー基底を用いて論理パズルを解いてみよう〜

【日時】4月22日(金)16:00〜17:30(90分)

【対象】全学年

【会場】S301教室

【講師】太田 洋平(本学院数学科)

この日はスマホやタブレットノートPCを用いてグレブナー基底について理解を深めました。

グレブナー基底は多変数の方程式の解を用いるときなどに用いられている理論です。

国際交流プログラム

コロナ禍の中、対面による相互交流は壊滅的ですが、オンラインを使って様々な取り組みをしています。

生徒達の活躍

◆スキー部

伊能 百香(2C)詳細(大会名、順位や賞の名前)

令和3年度埼玉県学校総合体育大会(高校の部)兼全国高等学校総合体育大会スキー競技予選会

女子ジャイアントスラローム競技優勝、女子スラローム競技準優勝。同予選会女子学校対抗戦優勝。

令和3年度第71回全国高等学校スキー大会女子ジャイアントスラローム競技68位、女子スラローム競技60位。

令和3年度第77回国民体育大会冬季大会スキー競技会

少年女子ジャイアントスラローム競技59位、令和3年度第34回全国高等学校選抜スキー大会女子スーパーG競技26位、女子ジャイアントスラローム競技62位、女子スラローム競技34位。

令和3年度埼玉県高等学校スキー競技新人県大会女子ジャイアントスラローム競技優勝、女子スラローム競技優勝。

◆バスケットボール部(女子)

埼玉県北部支部選手権大会

5月3日 代表決定戦

会場:熊谷市民体育館

vs 深谷第一 ○60-58

◆関東大会県予選

5月13日 会場:上尾運動公園体育館

vs 昌平 ×56-85

◆ソフトテニス部(男子)

関東大会埼玉県予選会北部支部大会個人戦

(4月23日・26日) @熊谷さくら運動公園・東松山市営庭球場

ベスト16:永田湖之心(3B)・根本陽生(3A)ペア

ベスト32:長谷川水奏(3A)・斎藤優河(2B)ペア

※上記ペアが県大会に進出。

◆関東大会埼玉県予選会個人戦

(5月3日) @熊谷さくら運動公園

永田・根本ペア、長谷川・斎藤ペアとも初戦敗退。

◆関東大会埼玉県予選会団体戦

(5月5日) @くまがやドーム

1回戦:早大本庄1-2 @川越工業。

◆ソフトテニス部 女子

◆関東大会埼玉県予選会個人戦

女子ダブルス ベスト32高橋・米谷、吉新・下

男子ダブルス ベスト16野田・神谷

上記の結果よりシングルスで藤崎、ダブルスで野田・神谷がインターハイ県予選に出場予定

◆関東予選大会団体戦(5月14日〜15日)

男子 3位(関東大会、インターハイ県予選に出場予定)

◆陸上競技部

陸上競技部は既にインターハイ県北予選会、埼玉県予選会を終えました。

両大会共に陸上部員は多くの素晴らしい結果を残しています。

県大会は多くに喜び立っ結果も悔しさに震える結果もありましたが、歴代最多の5名種目と男子4x100mリレーで北関東インターハイの出場が決まりました。

リレー以外は個人競技ですが、普段の練習、大会でのサポート、心からの応援をもってチーム全体で全国インターハイへの出場とその先を目指していきます。

また本年度も多くの新入部員を迎えましたので、より多くの人に陸上競技と陸上部の楽しさ、日々の充実を味わって貰いながら、引き続き日々の練習に励んでいきます!

◆県北大会(4/22〜24熊谷)入賞者

男子

100m

4位 滝澤 悠貴(2) 11" 15 風+1.0

200m

優勝 森田 陽樹(3) 21" 99 風-0.6m

3位 森 輝星(2) 23" 04 風-0.6m

400m

優勝 森田 陽樹(3) 48" 51

2位 森 輝星(2) 50" 59

800m

3位 酒巻 耀希(3) 1' 59" 43

4位 阿久澤佑佑(3) 1' 59" 52

1500m

2位 佐藤 広人(2) 3' 59" 14

5位 谷川 航太(1) 4' 05" 28

8位 酒巻 耀希(3) 4' 08" 10